

1490 (延徳2)	何人百韻 (梅いづこ 種玉庵 張行 何人百韻 (梅が香の張行 常徳院一周忌追善四要品 歌会 種玉庵 張行 夢想住吉法楽独吟百韻 (すみよしの)	何人百韻 (花やあらぬ (東山清水寺本願 坊 (一 (一 何船百韻 (曙や 何人百韻 (九重の 連歌百韻 (明日はたが 何船百韻 (さよ風も 何山百韻 (吹きも来ぬ (一	(一 (一 (一 (一	近衛亭 月次和漢会 近衛亭 月次和漢会	連歌抄 (宗祇作禁裏御 本) 七人付句判詞 新古今集を校合 詠歌大概注	村田肥前守経安 分集贈る 肖柏に 古今集 講釈 (三条西亭 実隆 清書 藤原祐自 百人一首抄 加註 後土御門帝・実隆両吟百韻 連歌に加点 後土御門帝・実隆両吟百韻 連歌に加点 三条西亭 源氏物語朗読 官務文庫修理 銭千疋寄進 二階堂行二 古今弔問 実隆 連歌抄校合
1491 (延徳3)	越後下向 (四) 人丸像新図供養三十首歌 講 種玉庵 張行 湯山三吟何人百韻 (薄雪に 張行	何木百韻 (今朝のあさ (池田正種張行 何路百韻 (風きよし (七条道場金光寺	(一 (一	近衛亭 月次和漢会 近衛亭 月次和漢会	『下草』草稿本成るか 詞字註 成る 詠歌大概注 自撰和歌集「宗祇集」 初編本なるか	書写 (?) 宗長・泰謙に古今集講釈
1492 (延徳4)	何船百韻 (春過ぎぬ張行 独吟何路百韻 (陰涼し 小松原独吟湯川政春所望 (明応元)	何路百韻 (霞さへ 何路百韻 (梅が香の 何人百韻 (まづ見よと 山何百韻 (花ぞ散る 何人百韻 (花ぞ青葉 (一	(七条道場金光寺 (一 (一 撰津千句連歌会 (七条道場金光寺 (一 (一	近衛亭 月次和漢百韻 (遅桜 近衛亭 月次和漢会 近衛亭 月次和漢会 近衛亭 月次和漢会 実隆の「土左日記」聴講	内外口伝歌共	実隆に与える 三条西亭「源氏物語」論談 同「定家卿 未来記と雨中 吟」読む
1493 (明応2)	越後下向 (五)	本式連歌何水百韻 (水薫り 何船百韻 (花ぞ春	(清水寺 (一	近衛亭小月次連歌会 近衛亭 月次和漢会 近衛亭 歌会	『下草』初編本 成る	後土御門帝 「連歌新式」、 用捨について下問 勝仁親王主催の兼題付句連 歌(前句付)に加点 百人一首抄に奥書
1494 (明応3)		何路百韻 (うつろはで	(池田正種主催 近衛亭小月次連歌会	近衛亭 月次和漢会	奈良大乘院へ書状 「新集連歌事(新撰菟 玖波集)」を言及	
1495 (明応4)	何人百韻 (朝霞 種玉庵 張行 *新撰菟玖波集成就祈念		近衛亭小月次連歌会 一条冬良亭連歌会 近衛亭小月次連歌会 近衛亭小月次連歌会 一条冬良亭連歌会 近衛亭小月次連歌会 近衛亭小月次連歌会 近衛亭小月次連歌会 近衛亭小月次連歌会 近衛亭小月次連歌会	禁中年々の連歌を恩借 禁中千句連歌懐紙年々分 恩借 三条西亭 和漢連句会 近衛亭 月次和漢会 近衛亭 月次和漢会	連歌嫌物御不審条々 淀の渡 一本の奥書 『新撰菟玖波集草案本』 新撰菟玖波集 中書本 新撰菟玖波集 清書本 『新撰菟玖波集』奏覧	後土御門帝・勝人親王両吟 連歌に加点 相良為統 加点を所望 東素純に「伊勢物語」「源 氏物語」講釈 実隆と新撰菟玖波集、談合 (連歌打聞) *兼載と対立 三条西亭に持参 東素純に「古今集」「詠歌 大概」講ず 天皇連歌に加点下命 後土御門帝
1496 (明応5)	本式連歌独吟何人百韻 (引かじ今日	(清水寺 永原千句 (いくもとぞ 何人百韻 (玉すだれ 何路百韻 (露や匂ひ 山何百韻 (月も人に	(近江 内藤護道 桜井宅 (一 沢村某九連歌会	近衛亭小月次連歌会 近衛亭小月次連歌会 近衛亭 月次和漢会 近衛亭 月次和漢会	長門住吉社法楽百首 勸進 『再編老葉』自注本(再 稿本) 連歌嫌物 『下草』過渡本成るか 源氏物語不審抄出 下草 改修本 成る	実隆に古今集 切紙伝授 大内義興に贈る 禁中に回答 姉小路基綱・濟継に古今集 講釈伝授 禁中連歌 加点 三条西亭へ持参 禁中連歌二座懐紙に加点 万葉不審題目について語る